

2/4 2/12

Mr. Stimson, Shikie  
Baka. - 6  
Santa Fe Detention Station  
Santa Fe, N. M.

DETAINED ALIEN  
ENEMY MAIL  
EXAMINED  
BY 25-4  
U. S. I. & N. S.

拝読

一月廿七日付の件七信 二月一日着 早速拝見仕度

その後お書きの通り 仰えられた由に安心仕度

私の方兼てお書きの通り 急事にて相見合へる事迄

は 市役所迄下り 此地へ 降雪がある

有 当地の 降雪を 早く 解氷

と思われしに 又 候 昨程の 雨が 今朝 雪に

変わり 降し しまし 候

式程より 赤十字社より 慰問品より 有り 奉

ふ 配られた由に 是より 早速 送付 する べく

有 早速 送付 する べく 配付 する 事

有 是より 又々 時 西油 へ 送付 する

より 事 大抵 悉く 送付 する 事

西元の 是より 甚く 是より 送付 する

有 是より 甚く 是より 送付 する

当地一般 キャンプに 立退き 者 にも 赤十字社

寄贈品の一部 配付 する 事



信の由と云ふは有るしと云ふは仰達の  
手をとる事として不敬取留油は昨のヤン  
位人十有以上の人々に一人きり半ガウシの  
割合にて毎戸に五匁の割合にて何れ又  
その由に等と書籍の新着書に在るやと  
云ふ事は有りきいづれに一と力と母氏か  
在外者の窮困を救ふ事として是れに割合  
大して事じやうと云ふ事多き所なり  
不敬取留油として云ふ事は何ん  
堪へる次第で云ふ事

時計の修繕をまたおまかせの事なり  
早に何れ取置き申す事又必要の所  
あり申談に決まらぬに直ちに申部送の  
申上きうを後を助よりは何の事なき  
ありきか一日も滞り早のうに事をい  
合申す先般昨々お告所よりマシナ  
族の許へ送られし人  
（教育映画  
え活動の講演として  
オ市やシヤリンとも毎年  
来りし人父まに）より手紙を頂き申す







片すすか ちきんつては働かすい 昔は是れをい  
着の家長の働いて居るは家族は洋服料  
して一人毎月375の割に半をもらて居る  
私方には文の家の長と新田の働かす又い  
はるやの家の長と一割を居るに我々夫婦  
子供良きで一人375の割に二毎月  
受けて居るは居るは洋服料を我々の  
収入の所得税の申告書に計算  
記入して居るは白紙夫婦あるに千二百円  
をえん 附して一事は着るはあす  
(食と衣とを政府の供養するに居るのですか)  
此等と書下り申告書をたてて居るは  
有るに片すすか 昔の政府  
より供養する収入の知らす人より又

今年1943年の申告書に  
収入の申告書に  
L. S. Spangler  
千七百円、貴下の申告に  
11月11日 三つと  
11月11日 三つと  
11月11日 三つと



5

牙後

レミンメンティー・レミンをまいてきられすーは、折々お茶  
を頂きすす毎分りの中、二つ事をきられし事あり

春し候<sup>時</sup>同  
の位  
の  
成  
を  
おし  
た  
思  
は  
れ  
ま  
す  
や  
な

アトしと左記を記し之をきす所  
たかき下り

120 E. 50th St.

直陽は生さうし下かまうしーのふしに

エ  
ニ  
ア  
タ  
ン  
街  
の  
ア  
イ  
ス  
ク  
ム  
店  
の  
人  
と  
も  
話  
合  
い、  
お

孫文君今夕寄  
× 一 漸  
小泉店主人

か  
き  
ん  
ぶ  
字  
換  
い  
許  
に  
帰  
ら  
れ  
と  
の  
う  
へ  
に  
し  
る

[illegible]

王季子事王  
陳寢名の由に

五  
三  
一  
又  
元  
9  
302  
9  
人  
一  
七  
三  
九  
九  
一  
二  
九

とろゝゝ為家光夫人の御書也

時疫 氣 邪 之 生 肝 受

有始有

4 3 2 1 0 1 2 3 4

11  
2  
97  
12  
3

下  
新  
考  
平  
銀

ベニの工合悪しくインクが染れず字跡を汚し

17 張 簿 記

$$\begin{array}{r} 1-323 = 830 \\ 9-12 = 1200 \\ \hline 2030 \end{array}$$